想いのこもったハートの形の贈り物
JA が市立小中学校給食にイチゴのプレゼント

1 月 25 日東小学校で、JA しおのや様からのイチゴ贈呈式が行われました。JA 職員から生産者の努力や、イチゴの旬が 1 月下旬ごろであること、栃木県は生産量日本一であることなどが説明された後、市内の生産者が作った『とちあいか』が贈られました。

増渕校長は「説明いただいた内容も付け加え、食育にもつなげながら、児童がよりおいしさを実感できるよう給食で提供したい」と話しました。

◀（左から）
JA しおのや大澤常務理事
黒子 翔生さん
関谷 飛南さん
JA しおのや渡辺専務理事

▼２月７日には市内小学校給食で提供されました

『矢板市』を背負い粘りの走り
第 65 回栃木県郡市町対抗駅伝競走特別大会

1 月 28 日宇都宮市カンセキスタジアムで、栃木県郡市町対抗駅伝競走特別大会が開催されました。前回までのロードでの開催と異なり、トラックを周回する形で行われた今大会。矢板市からは 10 代から 40 代までの選手 10 人が力強い走りを見せてくれました。

横塚監督は、「それぞれにベストを尽くし、粘りの走りを見せてくれたことで、昨年の順位を上回ることができた。選手たちを労いたい」と話しました。

文化財防火デー
市内文化財を守るため訓練を実施

1 月 28 日、寺山観音寺・山縣有朋記念館など市内文化施設で消防署や消防団が参加し、機器点検や放水訓練などが行われました。これは文化財を災害から守るとともに、市民の文化財愛護意識を高めるため、1 月 26 日の文化財防火デーに合わせて実施しているものです。

消防署員は「有事の際は訓練どおり行かないことが多い。共に協力し、柔軟な対応ができるよう地域が連携して文化財を継承しましょう」と話しました。

▲山縣有朋記念館での放水訓練の様子

高原山の恩恵を後世に残すために
森とともに生きるまちづくりプラン始動

1 月 29 日市役所で、矢板市森づくり協議会 谷本会長から「矢板市森づくりビジョン」「矢板市森づくりアクションプラン」策定に関する答申書が提出されました。これは、矢板市森づくり条例（令和 5 年 10 月制定）に基づくもので、森林資源を生かした魅力的かつ持続可能なまちづくりを目的として作られたものです。谷本会長は「高原山の豊かな自然を生かした特長あるまちづくりを目指してほしい」と話しました。

（左から）矢板市森づくり協議会 谷本会長、齋藤市長

ペットボトル再利用にご協力ください
地域連携でサステナブル社会の実現へ

2 月 2 日エコパークしおやで、塩谷広域行政組合・矢板市・さくら市・塩谷町・高根沢町とサントリーグループが、「ボトル to ボトル」水平リサイクルに関する協定を締結しました。これは回収されたペットボトルを再生ペットボトルへリサイクルすることで、資源が循環する持続可能な社会の実現を目指すものです。

北村副本部長は、「この協定には、市民の協力が不可欠。地域と一体となり、取り組みたい」と話しました。

（左から）齋藤市長、サントリーホールディングス（株）サステナビリティ経営推進本部 北村副本部長

あのとき（3･11）の恩返しと能登の力に
市職員を能登半島地震被災地に派遣

能登半島地震の復旧支援のため、1 月 20 日から市職員を順次派遣しています。現地で応急給水や避難所運営にあたった職員は、帰庁後、早速市長らに現地の様子や、大規模災害が発生した際に市として参考とすべき点などについて報告しました。職員は、現地の道路事情が過酷で支援の妨げになっている問題や、避難者の要望に対し『現場判断』が多く求められる現状などを報告しました。

今後も、能登半島地震被災地の一日も早い復興のため、引き続き市職員を派遣していく予定です。

▲東日本大震災の教訓をもとに購入された圧送機能などを搭載した給水車。現地でも重宝され、被災地での給水活動に大いに貢献したようです

▲突き出てしまったマンホール

▲傾いたまま使用される信号機

▲トイレカー。全国から支援の力が

▲給水ポイントの奥には傾いたビルも

日本の絆
今こそ強く
令和６年
能登半島地震災害義援金を
受付しています。
詳しくはこちら
やいた

魅力的なまちってどんなまち？『こどもまんなか』の考えでまちづくりを

1月30日イケポス池田キッズハウスで、こどもまんなかミーティングを開催しました。これは、市が昨年県内初の『こどもまんなか応援サポーター』を宣言したことを受けて、近い将来社会の一翼を担う高校生を対象に、今後の子ども施策について広く意見を聴取することを目的に初めて開催されたものです。当日は、市内の3高校の生徒代表35人が一堂に会し、住んでみたい場所や働きたい場所、矢板の良いところなどについて意見を発表し、市長とトークセッションを繰り広げました。

『住みたい、働きたい、魅力的なまち』

矢板市がそうなるためには、
- SNSなど若い子たち向けのPRをもっと積極的に
- 若者に人気となるようなスポットづくりを
- 矢板駅を橋上化して駅東西の交流と利便性向上を
- 文化的な施設がまだまだ足りない
- 子どもが利用するときの運動施設利用料の減免を
- 大型の商業施設を誘致してほしい
- 通学路が暗いのでもっと明るく

など、たくさんの意見が出ました。齋藤市長は「皆さんの意見を参考にしながら、『あるもの探し』をし、小さくてもきらりと光る矢板市を目指します」と総括しました。

さらなる交通利便性の向上が、矢板市にとって多方面で良い影響を及ぼすと思います。

私たち若者だけでなく、お年寄りにも住みやすいまちを目指して欲しいです。

矢板市はスポーツが盛ん。プロスポーツを誘致できれば、市内がさらに活性化すると思います。

『自ら学ぶ力』を育む「家庭学習ノートコンテスト」表彰式が行われました

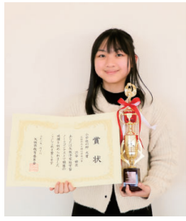
2月10日生涯学習館で、市立小中学校の児童生徒を対象とした「第7回家庭学習ノートコンテスト」の表彰式が行われ、入賞者に賞状が授与されました。

これは、学習習慣の定着を図るとともに、家庭学習を通じて『自ら学ぶ力を身に付けてほしい』との思いから始まったものです。

入賞作品は、優秀作品集として関係各所に配付され、今後の家庭学習の資料として活用されます。

令和5年度　矢板市家庭学習ノートコンテスト優秀作品集▶

小学生の部 大賞



片岡小学校6年
渋谷　姫花さん

後で見返しても、誰が見ても、読みやすくわかりやすいノートにすることを心がけました。また、学校の授業だけでなく、その日のニュースで疑問に思ったことや、興味をもったことなどを調べたりしました。

毎日コツコツと、一生懸命に取り組んだことで、大賞という成果につながったことがうれしいです。

中学生の部 大賞

矢板中学校1年
手塚　茉那さん

大賞が受賞できて、家庭学習に自信がつきました。日々心がけていたことは、教科書を写すのではなく、内容をわかりやすく自分なりに考えてまとめたことです。マーカーで引いたり、枠で囲んだり、イラストを入れたりして、大切なポイントを目立たせる工夫をしました。これからも家庭学習をがんばって、苦手な数学の成績を伸ばしたいです。

小学生の部 最優秀賞

矢板小学校1年　宮﨑　新菜　さん
矢板小学校2年　小口　一花　さん
乙畑小学校3年　山野井 遥音　さん
矢板小学校4年　辻　唯愛　さん
泉小学校5年　吉成　悠真　さん

中学生の部 最優秀賞

片岡中学校2年　木村　志織　さん
矢板中学校3年　齋藤　花那子　さん

優秀賞　45人

▲（上）第一部（小学1～4年生）
◀（下）第二部（小学5･6年及び中学生）

移住・定住促進へ
新地域おこし協力隊、着任

２月１日市役所で、通算 16 人目となる地域おこし協力隊員が着任し、辞令交付式が行われました。坂和隊員は、地域づくり活動の拠点である矢板ふるさと支援センター TAKIBI のスタッフとして、関係人口の創出や移住・定住の促進に取り組みます。

辞令を受けた坂和隊員は、「世代を超えた交流を活発に行い、矢板市をより良いまちにしていきたい」と話しました。

（左から）坂和 紀明隊員、齋藤市長

まずは県内１冠
矢板中央高校サッカー部が県新人大会を制覇

２月 10 日県グリーンスタジアムで、栃木県高等学校サッカー新人大会決勝戦が行われ、矢板中央高校が３－１で國學院栃木高校に勝利し、見事優勝を果たしました。この大会は現２年生と１年生が対象で、“代替わり”をして初めての県大会であり、今後の試金石にもなるものです。同校は、決勝戦を含めて４試合全てで３得点以上を記録する圧倒的な戦績で優勝。今年も『赤い壁』の活躍が大いに期待できそうです。

▲試合終了間際、試合を決定づけるダメ押しの３点目
得点は写真左から５人目の MF 田中 晴喜選手のヘディングシュート

講師は小学４年生！？
スクラッチでスイカゲームを作ろう！

市では、世代を超えた学びをテーマにこれまで５回にわたる初心者向け親子プログラミング教室を開催してきました。受講者だった親子が独学で、昨年ヒットした人気ゲーム「スイカゲーム」に似たプログラムを作ったことを受けて、講師として招き、参加した親子がプログラミング入門ソフト「スクラッチ」でスイカゲーム作りに挑戦する「プログラミング教室＋（プラス）」が開催されました。

参加者は、エンジニアや学生など多様なスタッフと共に、それぞれに学びや気づきのある時間を過ごしました。

受講した親子と、高校生から主婦までボランティア参加したサポートスタッフの皆さん

東小学校４年生で講師を務めた大谷　月輝さんと（父）聡宏さん